

## 2019年3月期決算概況（参考資料）

2019年5月9日

ニチハ株式会社

（コード番号7943、東証・名証第一部）

## 1. 2019年3月期通期業績

## (1) 連結業績

	2018/3期 実績	2019/3期		前期比		予想比		
		予想	実績	金額	%	金額	%	
売上高	116,144	119,200	119,160	3,015	2.6	△39	△0.0	
営業利益	13,232	13,300	12,720	△511	△3.9	△579	△4.4	
経常利益	13,796	13,700	13,137	△659	△4.8	△562	△4.1	
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,151	10,000	9,915	△1,235	△11.1	△84	△0.8	
	中間	27.5円	28円	28円	0.5円	—	0円	—
	期末	33.5円	28円	28円	△5.5円	—	0円	—
1株当たり配当金	61円	56円	56円	△5円	—	0円	—	

(注) 予想: 2018年11月7日決算発表時の予想、ただし中間配当金については実績

## (2) 連結業績の説明

## ① 市場環境等

当社グループ主力製品の窯業系外装材の主要マーケットである新設住宅着工戸数は、貸家の減少傾向が続いたものの、持家及び分譲住宅が下半期に入って増加したため、2018年度の全体の新設住宅着工戸数は953千戸と前年度比0.7%、特に当社グループ事業との関係が強い戸建住宅に限れば同2.8%の増加となり、市場は回復基調で推移しました。

一方、当社グループの主力製品である窯業系外装材の2018年度における業界全体の国内販売数量は、2018年度下半期では前年同期比0.5%の増加と回復傾向にあるものの、貸家向けの減少に加え、戸建住宅着工との数カ月のタイムラグもあり、前年度比1.7%（JIS規格対象外の12mm厚製品を含む基準）の減少となりました。

## ② 売上高

主力の国内事業は業界全体の落ち込みを高付加価値商品を中心としたシェアアップで吸収して増収となったほか、米国窯業系外装材事業は引き続き堅調に推移し増収となったことから、全体の売上高は1,191億60百万円と前連結会計年度比30億15百万円（2.6%）の増収となりました。

## ③ 損益

国内におけるエネルギーや物流のコストのアップに加え、米国窯業系外装材事業での営業体制強化に伴う先行費用の発生などにより減益となったことから、営業利益は127億20百万円と前連結会計年度比5億11百万円（△3.9%）、経常利益は131億37百万円と同6億59百万円（△4.8%）、親会社株主に帰属する当期純利益は、前連結会計年度に米国子会社で新たに繰延税金資産を計上した影響もあり、99億15百万円と同12億35百万円（△11.1%）の減益となりました。

## ④ 配当

当期の配当金につきましては、既に実施済の中間配当金28円に加え、期末配当金は、当初の予想通り1株につき普通配当28円を実施する予定であります。これにより当期の年間配当金は、1株当たり56円となる予定であります。

## 2. 次期2020年3月期の通期業績予想

## (1) 連結業績

(百万円、%)

	上期			下期			通期		
	金額	前年同期比		金額	前年同期比		金額	前期比	
		金額	%		金額	%		金額	%
売上高	61,500	4,929	8.7	66,500	3,910	6.2	128,000	8,839	7.4
営業利益	6,500	1,064	19.6	8,000	715	9.8	14,500	1,779	14.0
経常利益	6,600	879	15.4	8,200	783	10.6	14,800	1,662	12.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,100	897	21.4	5,900	186	3.3	11,000	1,084	10.9
1株当たり配当金	30円	2円	—	30円	2円	—	60円	4円	—

(注) 通期の想定米ドル為替相場: 111.00円

(2) 連結業績予想の説明

当社グループ主力製品の窯業系外装材の主要マーケットである住宅市場につきましては、国内においては新設住宅着工戸数は減少すると見ております。一方、米国市場においては引き続き堅調に推移すると予想されます。このような状況の下、当社グループでは、国内においては業界初である塗膜30年保証に対応した新商品を始めとして、高付加価値商品などの一層の拡販によりシェアアップを図るほか、非住宅市場では中高層建築物対応の新工法採用に向けた提案営業の強化などによりさらなる販路拡大に注力いたします。また、海外事業においては、米国では引き続き堅調な推移を見込むほか、米国以外の海外市場開拓にも取り組みます。さらにコスト面では、エネルギーコスト、物流費等の高騰は避けられないとみておりますが、グループ全体で合理化・コスト削減を強力に推進いたします。

これにより、売上高は1,280億円と前期比88億39百万円(7.4%)の増収を、営業利益は145億円と前期比17億79百万円(14.0%)、経常利益は148億円と同16億62百万円(12.7%)、親会社株主に帰属する当期純利益は110億円と同10億84百万円(10.9%)のそれぞれ増益を予想しております。

(3) 配当

配当予想につきましては、現時点での通期連結業績予想に基づき、中間・期末配当金ともに各30円の年間60円を予想しております。

3. 決算関係データ

(1) セグメント別売上高の主要内訳

(百万円)

	2018/3期 実績	2019/3期			2020/3期		
		実績	前期比		予想	前期比	
			金額	%		金額	%
売上高	116,144	119,160	3,015	2.6	128,000	8,839	7.4
外装材事業	105,852	108,790	2,938	2.8	117,000	8,209	7.5
国内	92,225	93,809	1,584	1.7	100,500	6,690	7.1
米国(窯業系)	13,627	14,981	1,353	9.9	16,500	1,518	10.1
(百万US\$)	(120.6)	(135.6)	(15.0)	(12.5)	(148.8)	(13.1)	(9.7)
その他	10,291	10,369	77	0.8	11,000	630	6.1

(注1) 国内外装材には、日本からの米国以外への輸出及び中国事業など、少額の海外売上を含む。

(注2) その他の内訳は、繊維板事業、工事事業、FP事業、その他事業

(2) 市場環境

	年度	上期			下期			通期計
		第1四半期	第2四半期	計	第3四半期	第4四半期	計	
<b>住宅市場</b>								
新設住宅着工戸数 千戸	2017	250 (1.1)	247 (Δ2.4)	497 (Δ0.7)	244 (Δ2.5)	205 (Δ8.2)	449 (Δ5.2)	946 (Δ2.8)
	2018	245 (Δ2.0)	246 (Δ0.2)	491 (Δ1.1)	246 (0.6)	216 (5.2)	462 (2.7)	953 (0.7)
ウチ一戸建 千戸	2017	110 (0.9)	110 (Δ4.0)	220 (Δ1.6)	112 (Δ0.9)	94 (Δ2.8)	206 (Δ1.8)	426 (Δ1.7)
	2018	109 (Δ0.6)	112 (1.1)	221 (0.3)	116 (3.9)	101 (7.2)	217 (5.4)	438 (2.8)
<b>窯業系外装材業界</b>								
NYGサイディング販売数量 千坪 [日本窯業外装材協会] (12mm厚製品を含む従来基準)	2017	8,034 (4.3)	8,206 (0.4)	16,240 (2.3)	8,587 (Δ0.7)	7,867 (Δ4.8)	16,454 (Δ2.7)	32,694 (Δ0.3)
	2018	7,851 (Δ2.3)	7,735 (Δ5.7)	15,586 (Δ4.0)	8,662 (0.9)	7,874 (0.1)	16,536 (0.5)	32,122 (Δ1.7)
<b>当社</b>								
窯業系サイディング販売数量 千坪 (12mm厚製品を含む従来基準)	2017	3,756 (Δ0.6)	3,817 (Δ3.8)	7,573 (Δ2.2)	4,021 (Δ1.6)	3,719 (Δ5.9)	7,740 (Δ3.7)	15,313 (Δ3.0)
	2018	3,706 (Δ1.3)	3,717 (Δ2.6)	7,423 (Δ2.0)	4,170 (3.7)	3,803 (2.3)	7,973 (3.0)	15,396 (0.5)
NYGシェア %	2017	46.7 (Δ2.4p)	46.5 (Δ2.1p)	46.6 (Δ2.2p)	46.8 (Δ0.5p)	47.3 (Δ0.5p)	47.0 (Δ0.5p)	46.8 (Δ1.4p)
	2018	47.2 (+0.5p)	48.1 (+1.6p)	47.6 (+1.0p)	48.1 (+1.3p)	48.3 (+1.0p)	48.2 (+1.2p)	47.9 (+1.1p)